

# 研究發表

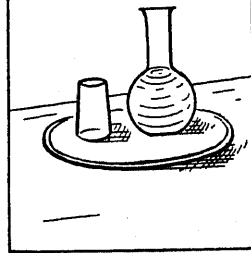
## 幼稚園に於ける數觀念の養成について

大和郷幼稚園 坂 内 ミ ツ

### 一、研究の理由

私は次のやうに考へて居る、小學校の教育は會席料理を食へさせるやうなもので、むしろ強制的に食へさせて全部食へた兒童には十點をつけ、八分目食へた兒童には八點をつける。幼稚園の教育は園遊會に招いたやうなものである、子供は食へたいものだけ食へればよいのであるが食へさせる方では考へなければならぬ、五歳には五歳の心理に

あつた獻立させねばならず、六歳には六歳の心理に叶つた獻立をつくらねばならぬ。園遊會の間でも或る子供はおすしだけでなくてはならぬ、園遊會の間でも或る子供はおすしだけ食へて満腹になり或る子供は毎日くおだんごだけしか食べぬ子供があるかもしれぬ、それを適當に誘つてせめてこんな御馳走が出て居るさいふ事だけは知らせねばならぬ、これが誘導保育ではあるまいか、其御馳走の内が一番忘れ



られ易いのは数の觀念である、数は石垣を積むやうに下から一つ一つ系統的に積むのでなければ上に進む事が出来ない、そこで保育者は数については系統的に数の範圍、進むべき順序を考へておかねばならぬ、所で幼稚園には固定教科書は勿論施行規則の内にも極めて大綱を示されたに過ぎない、小學校に附屬して居る園では本校との連絡上きめ易いのであるが、私立では何を標準にしてきめてよいかわかない、殊に私の園の如く七十三名の修了児が二十一校に分れて入學するやうな所ではこの小學校によつてよいかわからなくなる、小學校でも此頃は一年生の學習の出發し方は學校によつて大變違つて居る、いきなり抽象數の計算をさせ反復練習する處があるかと思ふ、一學期間は實物ばかりを取扱つて抽象數は一切取扱はぬといふ學校もある、私共はいづれを標準にしたらよいのであるか。

一、學齡前にはどこまで理解さすべきものかそこで已を得ず自分の信ずる處によつてきめたものを一つ持つて居らねばならぬ事になる、今私の考へて居るのは

#### A、量の比較、測量

(長さ、廣さ(面積) 大きさ(體積) 重さ(重量) ) ビネーシモン法では四歳児のテストに量の比較が出て居る。

B、年齢の一つ下の數までを明確に

數へるだけでなく直覺、分解綜合、すべての點より其數を理解せねばならぬ。

C、5までの直覺

20まで順に數へる事

實物につりて又抽象的に

10の逆數へ方

20の逆數へ方は優良児にのみ望み得られるもので普通は無理であるビネーシモン法では八歳児の問題である、往年小學校の入學テストに出た事はある。

10までの加減乗除

實物について充分會得してから抽象にうつる事が肝要。

D、興味の養成

數學は面白いものだと思ひ込ませ度い實際數の事は單純でこれ程面白いものはない。

#### 一、幼稚園に於ける方法

## 1. 保育項目のいづれに屬するものか

五項目は勿論自由遊何れの場合にも練習が出来るが、こぢつけたやり方は避け自然に練習させ度い。

## 2. そんな機會に取扱ふべきものか

團體的に取扱ふ。

幼稚園生活には團體的時間がある、あるのが當然である、時に團體的の仕事したり一時に同じやうな仕事をしたりする間に個人を洞察する事が出来る個人を一人一人見たゞけでは完全な觀察は出来ない、其取扱つて居る瞬間を見るに恰も一齊教授でもあるかのやうに見えるが、取扱ふ人の心持は違うのである、團體的に取扱はねば系統的に進みにくいのである、個人個人によりて不公平になる、幼稚園に於て公平にさいふ事を考へないでよければ神經過敏にならずに済んでみんなに快樂であるが、個人個人を思う時にさうしても公平でなければならぬ、個人的だけに取扱つてしかも公平にさいふ事は常人には不可能である、即ち朝集つた時、おかへりの前、手技や觀察の前後、お話の間等に

## 個人的に取扱ふ

自由遊び、手技等の時即ち砂場、まゝごみ石拾ひ、じゃんけん取(花一もんめ)、石けり繩はね、毬つき、碁石、おはじき等。

## 3. そんな方法で取扱うか

## A. の場合

色鉛筆を長さの順に列べさせる。

丈くらべ なるべく身長に差の少ない人を二人指してあてさせ實際比較して正否をたしかめる、兄弟雀の遊びには必ず三人身長順にならび先頭をかへ三回目は前を反對の順に列ぶやうになつた。

長さのあてくら 有り合せのもの何でも。

お辨當の重さの比較

同形異重のものゝ比較 同形の箱をつくり外形を同一にし重さを違へたものを持つて重さの順に揃へさす、十歳のテストには3g、6g、9g、12g、15gの五種が用ゐられて居る。

歩測、目測、測量

机の長さ、保育室の廣さ、遊戯室の廣さ等。

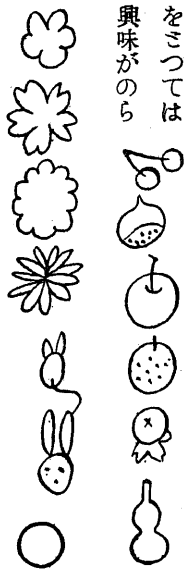
## B, Cの場合

### 實物について

指使用 屈伸の練習を兼ねて数へ方、逆数へ方に用ひる、加減乗除の練習にははじめから用ひぬ事。

實物使用 碁石、おはじき、木の實、貝石ころ等手近のもの、十二分に取扱はせ度い、排べ方をさせ直接記憶を連絡して面白く遊べる、朝顔が盛んに咲く九月のはじめには朝の内に一つ咲いた鉢、二つ咲いた鉢、三つ咲いた鉢を順々に列べさせ鉢数の比較をさせるに面白。

黒板使用 實物が手近にない時に便利である、時間を要せば速かに略畫を畫く事が必要、畫くために時間をこつては興味のがら



ぬ、おだんごせんべい、□かきもち、△おむすび。  
名數器使用 時間がかゝらず繪には著色してあるの

で興味をひく、殊に名數を覚えさせるには最も好である。

度々使用しないものである。

### 實物をはなれて

指を使はぬやう注意する事、二數を加へる時に3+2=5、3に2を加へる時も一つ二つ三つ四つ五つと數へたがるがそうでなく3は頭に入れ2をたし四つ五つと數へて行くやうに導き後にはすぐるも答へられる處までに導き度い。

### Dの場合

談話に仕組んで、上手な黒板畫又は名數器によつて面白くお話しながら數へさせる、お月見の話、風が果實を引く話、朝顔の成長する話などいくらもお話をつくられる。數を澤山數へさせ自信力を増させる。

黒板一つばい〇を畫いたり、おはじきなさを百以上も數へさせたり。いろ／＼の方法がある。

### 1. 配當について

子供が手にはいつたらすぐ始める事。

氣根よく反覆練習せよ 一度わかつたからきて安心は出來

ぬ、其時の調子で理解力のよい人になつたり極めて悪い人  
にありたりする、右左を確實に覚えさせるのでも人によつ  
ては百べんも其餘もくり返さねばならぬ。

系統的に計畫せよ 二年保育、こはまだ早いと思つて居る  
内に時が過ぎる、一年保育では忙はし過ぎる。

修了期に迫つてあわてるな、終りに近づいてから回数を多  
くするので人學準備教育でもして居るかこ誤られる、私共  
は常に幼児の年齢相當の心理的發達をして居るの否かを反  
省して進んで行くべきだこ信する、一日中の或る一瞬間を  
見て一日中そうして居るかこ早合點し或は教授的であるこ  
誇り、或は子守こ選ぶ所がないこ罵る人もあるがそんな認  
識不足の説に心を動かす必要が無い、所信に向つて進むべ  
きである。

在園中は何一つ覚えぬやうで宜しい、修了直後に其効果が  
あらはれなくてもよい、小學校低學年に於ける成績等で樂  
觀したり悲觀したりするのは早計である、一生の内何時か  
其潛勢力が勃然こして力を現す時のある事を信じ喜んで愉  
快に子供こ遊んで居ればよいと思ふのである。

### 御注意までに

七月二十二日より開催の文部省の講習受講  
者は、手技用具として西洋鋏、メートル尺、  
小刀、糊、鉛筆の御用意を願ひます。

七月二十二日より開催の日本幼稚園協會主  
催の遊戯の講習に御出席の方は運動服（或は  
普通の洋服にてもよろしい）運動靴の御用意  
を願ひます。